

# 平成24年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	059	事業名	青少年対策地区委員会活動支援
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	子育て・教育		青少年の健全育成
個別計画	子育て支援計画・アカデミー推進計画		
所管	男女協働子育て支援部	児童青少年課	
目的	各地区が持つ地域性を活かしながら、地域における青少年健全育成事業を実施している青少年対策地区委員会（9地区）の活動を支援することにより、区内青少年健全育成施策の充実を図るとともに、子どもたちが地域の中で温かく見守られながら健やかに成長していける環境をつくります。		
手段	青少年対策地区委員会が実施する青少年健全育成活動に対する補助を行うとともに、合同行事の支援を行います。また、委員研修会、会長会、地区連絡会などを開催し、情報交換や委員の知識の習得の場として活用しています。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
会長会	回	3	3	3	100%	3			3
地区連絡会	回	1	2	2	100%	2			2
委員研修会	回	1	1	1	100%	1			1
合同行事（実行委員会を含む）	回	13	18	18	100%	13			13
「健全育成活動の記録」の作成	冊	1,000	1,000	1,000	100%	1,000			1,000
青少年対策地区委員会事業補助	地区	9	9	9	100%	9			9

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	5,623	5,387	5,349	6,014		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	5,623	5,387	5,349	6,014		
所要人員 B	1.20	1.30	1.30	1.30		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	8,510	8,964	8,964	8,852		
総経費 E=A+D	14,133	14,351	14,313	14,866		

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】	9つの地区それぞれが持つ地域性を活かしながら、地域に根ざした事業を実施することができました。とりわけ九地区合同行事「文の京こどもまつり」は約4,000人の親子が参加するなど、青少年対策地区委員会の事業に対する区民の期待が高まっています。青少年健全育成施策の中心的役割を担う青少年対策地区委員会が、各地区の活動方針を策定したことにより、時代に即した効果的・効率的な施策の推進が期待されます。	【成果】	各地区委員会の活動方針に基づき、地域性を生かしながら、地域と子どもをつなぐ中心的役割を担う団体として青少年健全育成事業を展開しています。とりわけ九地区合同行事「文の京こどもまつり」の参加者は年々増加するなど、青少年対策地区委員会活動への期待が高まっています。
【課題】	時代の流れや子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、青少年対策地区委員会の活動内容についても、常に創意工夫が求められます。そのためには、委員研修などの機会を捉え、青少年を取り巻く課題等を、区と青少年対策地区委員会が常に共有する必要があります。各地区が策定した活動方針を活用した事業展開を図るなど、団体活動がより発展していくための支援が必要です。	【課題】	青少年対策地区委員会の役割や他の地域団体との連携のあり方をあらためて整理し、青少年健全育成活動をより効果的に展開する必要があります。青少年問題協議会と連携しながら、時代に即した活動の推進を図ることが必要です。
指標達成度		23年度	24年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①各地区委員会の事業は、家族のふれあいの場や青少年の社会参加の場としても好評です。	
②青少年対策地区委員会の活動には、地域の青少年関係団体や学校関係者などが参加しています。また、中高生リーダーの育成や事業への参画も定着してきました。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	次代に向けた活動のあり方を見据えながら、各地区の青少年健全育成施策に対する支援を継続していきます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 627千円 地区委員会支援経費、印刷費・役務費の減 地区対50周年記念事業経費の増
25年6月末		③ 所要人員の考え方 正規職員 12/12月×24人×30% 非常勤職員 12/12月×0.5人×20%
		④ 現状維持の理由 青少年対策地区委員会は地域における青少年健全育成を担う総合的な団体として、大きな役割を果たしています。

# 平成24年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	060	事業名	「はじめの一步! (文京区青少年育成プラン)」の推進
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	子育て・教育		青少年の健全育成
個別計画	「はじめの一步! (文京区青少年育成プラン)」・子育て支援計画		
所管	男女協働子育て支援部	児童青少年課	
目的	文京区青少年問題協議会で策定した「はじめの一步! (文京区青少年育成プラン)」に基づく実効性のある取り組みを、区内青少年関係団体とともに実施し、青少年健全育成施策の充実を図ります。		
手段	「はじめの一步! (文京区青少年育成プラン)」の重点行動である「あいさつ・声がけ・きっかけ作り」の啓発チラシや、ITメディアの安全かつ適切な活用についての情報提供用冊子を作成し、区内小学生等に配布します。また、文京区青少年問題協議会に検討部会を設置し、「(仮称)中高生育成方針」の策定に向けて検討を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
検討部会の開催	回	6	6	6	100%	6			6
あいさつ・声がけチラシ	枚	3,500	3,500	3,500	100%	3,500			3,500
ITメディア冊子(児童生徒用)	冊	4,000	4,000	4,000	100%	4,000			4,000
ITメディア冊子(保護者用)	冊	4,000	4,000	4,000	100%	4,000			4,000
中高生育成基本方針の印刷	部	5,000	5,000	5,000	100%	0			0

3 コスト						
単位:千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,958	1,949	1,540	1,557		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	1,958	1,949	1,540	1,557		
所要人員 B	1.25	1.20	1.20	1.20		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	8,865	8,274	8,274	8,171		
総経費 E=A+D	10,823	10,223	9,814	9,728		

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
<b>【成果】</b> 平成22年度まで実施していた「あいさつ・声がけ」標語は、毎年2,000件を超える応募があり、多くの区民に啓発することができました。また、過去の標語を活用したシール付きチラシを子どもたちに配布するなど、様々な手法を用いた啓発活動を展開しています。 「(仮称)中高生育成方針」の策定に向けた検討部会では、普段から中高生と関わりのある地域の方の目線で、有効的な議論が交わされました。	<b>【成果】</b> 「あいさつ・声がけ」運動の啓発用シールやITメディアに関する情報提供用冊子を区内児童や保護者に配布し、継続的な啓発を行っています。また、中高生が大人になるまでの総合的な育成支援施策を推進するための「文京区中高生育成基本方針」を策定し、今後の中高生向け事業の充実に向けて、地域団体などとの意識の共有を図りました。	<b>【成果】</b>	
<b>【課題】</b> 「(仮称)中高生育成方針」を策定することにより、地域や行政が行う事業の他、「(仮称)青少年プラザ」においても、その理念に基づく具体的な施策の実現が必要です。 「あいさつ・声がけ」運動については、引き続き、啓発方法の工夫や事業の継続性が求められます。	<b>【課題】</b> 「文京区中高生育成基本方針」に基づく中高生施策の充実を図るためには、その理念や中高生育成に関する意識を浸透させていく必要があります。また、青少年健全育成施策の一層の推進を図るためには、各地域団体等の役割も含め、時代に即した青少年健全育成活動のあり方を整理する必要があります。	<b>【課題】</b>	
<b>指標達成度</b>			
	23年度	24年度	25年度
	A	A	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①「区民の声」には「あいさつ・声がけ」運動に共感する意見も寄せられています。
②「文京区中高生育成基本方針」は、地域団体や学校教諭など普段から中高生と向き合っている大人たちの意見により組み立てられています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 各種啓発活動を継続的に実施するとともに、青少年問題協議会に新たな検討部会を設置し、時代に即した青少年健全育成施策のあり方を整理します。
		② 予算の増減内訳 △392千円 文京区中高生育成基本方針策定完了に伴う、印刷製本費の減事務用品等の減
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 正規職員 2人×12/12月×40% 非常勤職員 0.5人×12/12月×80%
		④ 現状維持の理由 青少年問題協議会を構成する地域団体からの多くの意見を取り入れながら、青少年健全育成施策の総合的な推進が図られています。
25年6月末		

# 平成24年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	061	事業名	青少年の社会参加及び青年育成事業の推進
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	子育て・教育		青少年の健全育成
個別計画	子育て支援計画・アカデミー推進計画		
所管	男女協働子育て支援部	児童青少年課	
目的	青少年が地域の人たちとの交流を通じて社会の一員であることを実感し主体的に社会参加するきっかけとなる事業を支援することで、青少年の社会参加と自立を促進します。また、青年が地域社会で自主的に活動するために必要となる講座や、青年自らが企画・運営する事業を支援し、地域社会で自主的に活動できる青年を育成します。		
手段	区内で非営利活動を行う団体（NPO等）が実施する、地域の人たちとの交流を通じて青少年が主体的に社会参加するきっかけになる事業及び、青年が地域社会で自主的に活動するために必要となる講座や、青年自らが企画・運営する事業に対し、補助金を交付します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
青少年の社会参加推進事業補助	件	5	7	7	100%	7			7
青年育成事業補助	件	3	2	2	100%	3			3

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,206	1,246	1,137	1,246		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	1,206	1,246	1,137	1,246		
所要人員 B	0.40	0.20	0.20	0.20		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	2,837	1,379	1,379	1,362		
総経費 E=A+D	4,043	2,625	2,516	2,608		

4 評価					
事業の成果及び課題					
23年度		24年度		25年度	
【成果】	平成21年度から比較して補助事業も増え、毎年多くの子どもたちが参加するなど、地域に根ざした事業展開により、十分な成果をあげています。補助事業の選考については、区の青少年関係所管課長が多面的な視点から審査を行っています。運営面やコスト面などNPOの特性を活かした事業展開により、効率性の高い事業が実施されています。	【成果】	継続して実施している事業については事業内容の充実が図られました。また、新規事業は積極的な事業の周知により、多くの子どもたちが参加するなど十分な成果をあげています。補助事業の選考については、区の青少年関係所管課長及び学識経験者が多面的な視点から審査を行っています。	【成果】	
【課題】	事業目的を実施団体と区が十分に共有し、実効性の高い事業展開を図る必要があります。青年育成事業は申請団体が固定化する傾向があります。地域の中での知名度が低く、集客力に不安を抱える団体については、事業の周知など側面からの支援も必要です。	【課題】	事業目的を実施団体と区が十分に共有し、実効性の高い事業展開を図る必要があります。また、青少年育成事業は申請団体が固定化する傾向があります。補助事業の選考について、補助対象が幅広く、選考基準のあいまいさが指摘されています。	【課題】	
指標達成度		23年度	24年度	25年度	
		A	A		

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①補助事業は、様々な立場の人たちとの交流の場として、参加した子どもたちにも好評です。活動の実績が少なく、その運営が不安定な団体からは、区からの様々な側面支援が期待されています。	
②NPO等と他の地域団体との協力体制も見受けられます。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	補助事業が今後の区の青少年健全育成施策に広く活かせるものとなるよう、補助対象や選考方法の見直しを図ります。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳
25年6月末		③ 所要人員の考え方 正規職員 3/12月×2人×40%
		④ 現状維持の理由 有効かつ効率的な事業展開が図られているため、引き続き補助を行います。

# 平成24年度 事務事業評価表【B様式】

1 事業の概要			
事業番号	062	事業名	文京区社会を明るくする運動
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	子育て・教育		子育て支援
		【小項目】	
		地域ぐるみの支援	
個別計画	子育て支援計画・アカデミー推進計画		
所管	男女協働子育て支援部	児童青少年課	
目的	法務省が主唱する「社会を明るくする運動」の趣旨に基づき、すべての国民が犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深めるとともに、それぞれの立場において力を合わせながら、犯罪や非行のない明るい社会を築いていくことを目指します。		
手段	関係30団体からなる「文京区社会を明るくする運動推進委員会」を組織し、7月の強調月間に合わせて「東京ドーム周辺広報啓発活動」「文京区社会を明るくする大会」「文京矯正展」などの啓発事業を実施し、本運動の趣旨を広く呼びかけます。		

2 取組状況	
22年度	「東京ドーム周辺広報啓発活動」を実施し、区内少年野球チームなどとともに啓発品を配布し運動の趣旨を呼びかけました。 「文京区社会を明るくする大会」を実施し、青少年の非行問題に関する講演や中学生の意見発表などを行いました。 社会を明るくする運動の60周年を記念して、府中刑務所などとの共催により「文京矯正展」を開催し、刑務所作業製品の展示・即売を行いました。
23年度	「東京ドーム周辺広報啓発活動」を実施し、区内少年野球チームなどとともに啓発品を配布し運動の趣旨を呼びかけました。 「文京区社会を明るくする大会」を実施し、青少年の非行問題に関する講演ライブや中学生の意見発表などを行いました。 また、昨年度に引き続き府中刑務所との共催による「文京矯正展」を開催し、刑務所作業製品の展示・即売を行いました。
24年度	

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	852	942	712	840		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	852	942	712	840		
所要人員 B	1.20	0.80	0.80	0.80		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	8,510	5,516	5,516	5,447		
総経費 E=A+D	9,362	6,458	6,228	6,287		

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
<b>【成果】</b> 東京ドーム周辺広報啓発活動では、少年野球チームなどの子どもたちも含み500名を超える人が参加し、広く本運動の趣旨を呼びかけています。 文京区社会を明るくする大会における中学生の意見発表では、中学生ならではの視点による前向きな意見が発表されるなど、参加型の啓発事業になっています。 文京矯正展では、2日間で約1,100名の来場者があるとともに、府中刑務所等との共催により効率性の高い事業展開ができています。	<b>【成果】</b> 東京ドーム周辺広報啓発活動では、600名を超える人が参加し、広く本運動の趣旨を呼びかけています。 文京区社会を明るくする大会では、非行からの立ち直りを支える家庭の絆の大切さを伝えていました。 文京矯正展では、3日間で約3,400名の来場者があり、多くの区民に対して更生保護の重要性を呼びかけました。	<b>【成果】</b>	
<b>【課題】</b> それぞれの事業においては、参加者に本運動の趣旨を十分に理解してもらえるような内容にしなくてはならず、常にその啓発効果を見据えた事業展開が必要です。	<b>【課題】</b> それぞれの事業においては、参加者をはじめ区民に対して本運動の趣旨・目的を十分に理解してもらえうような内容にしなくてはならず、引き続きその啓発効果を見据えた事業展開が必要です。	<b>【課題】</b>	
達成度	23年度	24年度	25年度
	A	A	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①いずれの啓発事業も参加者からは好評を得ています。
②(株)東京ドーム・読売巨人軍・文京学院大学女子中学高等学校・都立工芸高校など、企業や学校との連携も推進しています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 関係団体とともに事業内容の創意工夫をしながら、より効果的な事業内容を検討していきます。
		② 予算の増減内訳 △102千円 ポスター・チラシの単価減による印刷製本費の減
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 正規職員 3/12月×4人×80%
		④ 現状維持の理由 法務省が主唱する全国的な運動として、効果的な事業展開ができています。
25年6月末		

# 平成24年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	063	事業名	子ども110番ステッカーの充実
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	子育て・教育		青少年の健全育成
個別計画	子育て支援計画		
所管	男女協働子育て支援部	児童青少年課	
目的	子どもたちに対する犯罪の未然防止と、青少年が安全かつ安心して生活できる良好な地域環境の形成を目指します。		
手段	緊急時に子どもが駆け込める緊急避難場所を示す「子ども110番ステッカー」を協力者の自宅や事業所などに貼付するとともに、区内の小学校1年生には事業周知用のステッカーを配布します。 また、区立小学校PTAの協力により、ステッカー貼付場所の確認と協力者の継続意思の確認を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
ステッカー協力者数	件	1,754	1,829	1,832	100%	1,874			1,934

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	288	466	457	417		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	288	466	457	417		
所要人員 B	0.20	0.20	0.20	0.20		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	1,418	1,379	1,379	1,362		
総経費 E=A+D	1,706	1,845	1,836	1,779		

4 評価					
事業の成果及び課題					
23年度		24年度		25年度	
【成果】	区立小学校PTAが保護者の視点から直接活動に関わるため、子どもたちの安全面の状況を正確に把握することができ、適切な対応ができています。協力者数も年々増加しており、地域全体で子どもたちの安全を見守る意識が根付いています。	【成果】	協力者数の増加により、地域ぐるみで子どもたちの安全を見守る環境が整備されています。また、区立小学校PTAの協力を得てステッカー貼付場所の確認と協力者の継続意思の確認調査を行っているため、より信頼性のある事業となっています。	【成果】	
【課題】	ステッカーの貼付状況の調査等により協力者の状況を正確に把握し、信頼性の高い事業展開が求められます。スクールガードなど、他の事業と連携することで、本事業がより発展していくことも期待できます。	【課題】	子どもたちがステッカー貼付場所を正確に把握し、緊急時の避難場所を認識することで、より安全面を強化することが可能になります。また、スクールガードなど、他の事業と連携することで、本事業がより発展していくことも期待できます。	【課題】	
指標達成度		23年度	24年度	25年度	
		A	A		

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	地域で子どもを守るという意識の高まりから、事業に対する問い合わせ及びステッカー協力者数が年々増加しています。
②	区立小学校PTAの協力による貼付状況の調査を実施しており、保護者の目線から子どもたちの安全が保たれています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 子ども110番ステッカーによる犯罪の未然防止と、より安全な環境づくりの必要性を呼びかけながら、協力者数の維持・拡大を目指します。
		② 予算の増減内訳 △49千円 ステッカー印刷費（隔年）の減
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 正規職員 3/12月×2人×40%
		④ 現状維持の理由 区立小学校PTAによる貼付状況の調査により、信頼性の高い事業が実施されています。
25年6月末		

# 平成24年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	064	事業名	家庭の日啓発事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	子育て・教育		青少年の健全育成
個別計画	子育て支援計画・アカデミー推進計画		
所管	男女協働子育て支援部	児童青少年課	
目的	最も基本的な人間形成の場である「家庭」の意義を見直し、家族のふれあいや結びつきを深めることの重要性を呼びかけることにより、青少年健全育成施策の一層の推進を図ります。		
手段	青少年対策地区委員会（9地区）が実施する「家庭の日」啓発事業に対する補助を行うとともに、啓発資材を配布します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度		24年度			25年度	
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
「家庭の日」啓発事業補助	地区	9	9	9	100%	9			9
啓発品の作成・配布	枚	7,000	7,000	7,000	100%	7,000			7,000

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,736	2,168	2,009	2,126		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	1,736	2,168	2,009	2,126		
所要人員 B	0.05	0.10	0.10	0.10		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	355	690	690	681		
総経費 E=A+D	2,091	2,858	2,699	2,807		

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
<b>【成果】</b> 青少年対策地区委員会が実施する「家庭の日」啓発事業には多くの親子が参加するなど、地域における家族や世代間のふれあいの場として定着するとともに、地域の連携の機会としても活用されています。 「家庭の日」の啓発品は青少年対策地区委員会を通じて、広く配布されています。	<b>【成果】</b> 「文の京こどもまつり」など、青少年対策地区委員会が実施する「家庭の日」啓発事業は家族のふれあいや地域の交流の場として活用されています。 「家庭の日」の啓発品を野菜の種に変更し、家族参加型の啓発にすることで家族のふれあいや結びつきを深める機会を拡大しています。	<b>【成果】</b>	
<b>【課題】</b> 「家庭の日」の啓発品は、ただ配布するだけでなく、それを通じて家族のふれあいのきっかけとなるような、啓発効果を高める工夫が必要です。	<b>【課題】</b> より多くの家族がその必要性を感じ、具体的な行動につながっていくような様々な工夫が必要です。	<b>【課題】</b>	
指標達成度		23年度	24年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①青少年対策地区委員会が実施する「家庭の日」啓発事業には、毎年多くの家族が参加しています。
②青少年対策地区委員会の活動を通じ、地域性を活かした事業展開を図っています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
23年6月末	改善・見直し	<b>① 事業の展開内容</b> 青少年対策地区委員会が実施する「家庭の日」啓発事業に対し補助を行うとともに、啓発品の内容を工夫しながら継続的に啓発していきます。
24年6月末	現状維持	<b>② 予算の増減内訳</b> △42 啓発品作成経費の減
25年6月末		<b>③ 所要人員の考え方</b> 正規職員 3/12月×2人×20%
		<b>④ 現状維持の理由</b> 青少年対策地区委員会の「家庭の日」啓発事業や、啓発品の配布等により家族の意義を再認識する機会となっています。

# 平成24年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	065	事業名	青少年対策推進関係機関連絡会
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	子育て・教育		青少年の健全育成
個別計画	アカデミー推進計画		
	所管	男女協働子育て支援部	児童青少年課
目的	青少年の健全育成や非行防止などの青少年対策について、情報交換・意見交換を行い、区内小・中学校、高校、警察などの緊密な連携と対策の推進を図ります。		
手段	連絡会を開催し、警察からの少年非行概況の報告や、青少年健全育成施策に関する情報交換・意見交換を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度		24年度			25年度	
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
連絡会	回	2	2	2	100%	2			2

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	32	37	32	37		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	32	37	32	37		
所要人員 B	0.20	0.10	0.10	0.10		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	1,418	690	690	681		
総経費 E=A+D	1,450	727	722	718		

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度		25年度
【成果】 各地域における少年非行の状況を管轄の警察から報告するなど、生活指導の面からは有益な情報提供ができています。 (仮称) 中高生育成方針や(仮称) 青少年プラザなど、青少年問題協議会や区が取り組んでいる課題に対する意見交換ができ、連絡会の機会を行政と私立校等をつなぐパイプとして活用されています。	【成果】 各地域における少年非行の状況を管轄の警察から報告するなど、生活指導の面からは有益な情報提供ができています。 学校と地域との関わり(各校の現状や課題)や中高生世代の社会参加活動等、学校として行政や地域に期待することについて意見交換を行い、連絡会が行政と私立校等をつなぐパイプとして活用されています。		【成果】
【課題】 各校の特性や教育方針の独立性を考慮すると、連絡会での情報提供や意見交換をした結果を、各校の取り組みに反映させることが困難な状況です。	【課題】 各校の特性や教育方針の独立性を尊重しながらも、中高生向けの事業の拡充を図るためには、連絡会でのパイプを有効活用する必要があります。		【課題】
指標達成度			
			23年度
			A
			24年度
			A
			25年度

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①
②

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 出席校にとって、より有効的な連絡会にするとともに、他の事業との連携が図れるよう、各校との関係性を強めていきます。
		② 予算の増減内訳
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 正規職員 3/12月×2名×20%
		④ 現状維持の理由 区内国立・私立・都立校と区をつなぐ貴重な機会を有効活用しています。
25年6月末		

# 平成24年度 事務事業評価表【B様式】

1 事業の概要			
事業番号	066	事業名	(仮称) 青少年プラザ事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	子育て・教育		青少年の健全育成
個別計画			
所管	男女協働子育て支援部	児童青少年課	
目的	(仮称) 青少年プラザを設置し、中高生が気軽に集まれて自主的な活動ができる場や様々な人との出会いの機会を提供することで、中高生が社会性を身につけ自立した大人へ成長することを応援します。		
手段	教育センター等建物基本プランに基づき、平成27年度の事業開始に向けて施設面や運営面についての詳細を検討します。		

2 取組状況	
22年度	
23年度	教育センター等建物基本プランに基づく基本設計について、他自治体における類似施設（5か所）の見学も行いながら、関係各課や設計業者と検討を行いました。また、地域の実情や中高生に実態に沿った、施設の効率的かつ効果的な事業運営を図るため、地域団体や学校関係者等との意見交換会を定期的に開催し、利用者側の視点に立った検討を行いました。
24年度	

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A		0	5	150		
特定財源		0	0	0		
一般財源		0	5	150		
所要人員 B		0.60	0.60	0.60		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	0	4,137	4,137	4,085		
総経費 E=A+D		0	4,142	4,235		

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】	【成果】	【成果】	
	基本設計の検討に関し、他自治体の類似施設を見学したことは、諸室のイメージを固めるために大きな成果がありました。また、地域団体や学校関係者との意見交換会は、中高生の実態を知るために効果的であり、利用者側の視点に立った検討が進められました。		
【課題】	【課題】	【課題】	
	中高生にとって魅力ある施設にするために、中高生のニーズにあった事業計画を検討するとともに、その事業を実施していく運営体制も構築していく必要があります。また、事業計画の検討にあたっては、中高生自身のニーズも取り入れていく必要があります。		
達成度		23年度	24年度
			A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①意見交換会では、中高生世代の社会性と自立を促す施設のあり方について多くの意見があります。
②地域団体や学校関係者などにより、様々な角度からの議論がされています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	アンケート等により中高生の意見を聴きながら、中高生にとって利用しやすい運営方法や、魅力的な事業内容を検討していきます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 150千円 意見交換会経費、職員旅費、関係図書経費の増
25年6月末		③ 所要人員の考え方 正規職員 12/12月×3人×20%
		④ 現状維持の理由 地域団体や学校関係者の意見なども含め、有効な検討が行われています。